

令和3年度第2回仙台市GIGAスクール推進協議会 議事録(要旨)

1. 日時

令和3年9月17日（金）10:30～12:02

2. 場所

仙台市役所上杉分庁舎12階 仙台市教育局第1会議室（オンライン会議）

3. 出席者

（委員）

堀田 龍也 会長，大江田 真理 委員，木村 ひろみ 委員，工藤 哲 委員，佐藤 真奈 委員，鈴木 一生 委員，田中 充 委員

（事務局）

郷家学校教育部長，勢藤生涯学習課主幹，大友教育指導課情報化推進係長，太宰教育指導課主任指導主事，新妻教育指導課指導主事，横山教育指導課主査

4. 欠席者

稲垣 忠 委員（会長代理者），安藤 明伸 委員

5. 傍聴者

（なし）

6. 内容

○報告事項

(1)新型コロナウイルス感染症を踏まえたオンライン学習等の対応状況について

(2)部会における取組状況について

- ・教育の情報化推進部会の取組について
- ・家庭の情報モラル推進部会の取組について

○協議事項

(1)仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）の構成及びGIGAスクール端末の活用に関する今後の取組の見通しについて

○その他・意見交換

7. 議事要旨

○報告事項

(1)新型コロナウイルス感染症を踏まえたオンライン学習等の対応状況について

- ・事務局より別添追加資料1,2に基づいて報告した。

（質疑等）

堀田会長：本協議会のメンバー構成はPTA3名，校長3名，大学研究者3名と幅広いものとなっていて，これは忌憚のないご意見を広くいただくためのものと認識しており，自由に意見を出していただきたい。

堀田会長：貸出数は持ち帰った台数と理解してよいか。また，貸出という表

現は、普段の利活用はあくまで学校の端末をそのまま使っているため貸出ではなく、今回の練習のための貸出とは別物ということか。前回の協議会の議論で、「学校間格差とならないように、個々の学校の状況を理解するのが大事」という意見が出ていた。どれぐらいの学校がやれていなくて、そこに市教委でどのようなアプローチ、助言しているか、又はこれからしていくのか、示してもらえるか。

事務局（大友情報化推進係長（以下大友係長））：持ち帰った台数である。練習は各学校少なくとも1回は行ったところである。今回の新型コロナウイルス感染症に関連して登校できない児童生徒への学習支援としてのオンライン学習対応の状況はまだ分析中のため、この場にお示しできるものはないが、個々の学校へはそれを踏まえて助言したい。

堀田会長：今回の対応というよりは、1回目と2回目の協議会の間にどのようなことを行ったかを知りたい。学校によって種々の状況があらうかとは思いますが、その中で学校だけでは解決できないことがどのようなものがあって、市教委がどのような対応を行ったか知りたいということ。先日、市長記者会見で各校1回練習という発言があり、研究者間では、1回で全てうまくいくわけがないという捉えとともに、練習という言い方が、普段から持ち帰っていないことの現れとも見えた。

事務局（大友係長）：市教委の回線の増強が8月であり、それまで学校での利用に一部制約が生じていた。学校で学年ごとの利用とする等の工夫を行っていたが、全体としてはこれから利活用が進んでいくと考える。回線の問題で学校内での練習が進まなかったのも、持ち帰りに入る時期が遅れたという面はある。

堀田会長：全体としてはそうだと思うが、個々の状況として学校の問題の中で市教委で助言しなくてはならないこと等、個別の学校支援はどう行っていたか知りたい。

事務局（大友係長）：設定や機器不調等、数校に往訪して状況の確認と支援を始めてきたところ。

堀田会長：そのような事例について、その後どうなったか等、次回協議会でも共有する必要があると思うのでよろしく願います。

田中委員：学校で困っているのは、何ができないというよりは、そもそも何をオンライン学習というのか、市教委から示してほしいということ。本校の前期課程の生徒は発表等のツールは一通り使えるが、オンライン学習のためのツール、例えばGoogle Meetを使ったことが無かったので、持ち帰り練習時に戸惑うところがあった。オンライン学習はどのようなもので、そのために必要なツールはどれで、その中のどの機能を使う等、具体的に市教委から示してもらえると、学校でも何が自分たちに足りないか分かっ

て、市教委からの支援も受けやすい。

工藤委員：本校でも、資料作成、発表の仕方等、一通りのことはやれているが、それらはGIGAスクール構想開始以前の情報教育の枠と同じ内容のものである。そこから+αとして、全市共通でこれはやろう、というものがあるとよい。また、教員用のChromebookが足りない。いくつかの大規模校では一斉に使用すると無線LANがパンクするような話を聞いている。

堀田会長：文科省でも、教員用端末の話題等は出ていたところ。

木村委員：自分の子供の事例だと、学校から1日だけ持ち帰ってきたが、何をやるのかはよく解らなかった。PTAをやっている立場なので自分は学校が何をやっているかある程度分かるが、普通の保護者は学校が何をしているのかよく分からないと思う。また、低学年だと親が付いていなければならないが、機器の操作をどう手助けすればよいか分からない等の心配もある。

堀田会長：保護者への情報発信は1年前にも全国的に話題となっていたものであり、今まだそのような話が出ている状況はちょっと心配。

鈴木委員：学校での端末を用いた学習活動を家庭でも同様に行うために家庭の接続環境等を確認するための練習、と本校では保護者へ説明している。

鈴木委員：今の状況でオンライン授業を試みている中で、選択肢の一つとしてライブ配信も含めて検討しているが、なかなか難しい。

堀田会長：ライブ配信は帯域の消費が大きいことからあまり用いないものというイメージであるが、鈴木委員の学校ではライブ配信を進めているということか？

鈴木委員：特段予定はしていないが、メディアを見た市民の方から学校へいろいろ問い合わせがくるため、確認したいというもの。本校では対面を重視しており、Meetを用いる等答えている。

堀田会長：ライブ配信は帯域消費以外に、教育効果が限定的という面もある。

田中委員：堀田会長に伺うが、夜間のネットワーク制限は一律に必要か？

堀田会長：最初は市教委で全市的に決めるが、その後学校や校長会等で決めていけるようにするのがよいとは思われる。

事務局（大友係長）：オンライン学習は、令和3年3月に学校へ発出した練習の通知の中で、アプリケーションの操作にも触れていたもの。6月からは全学校悉皆のオンライン研修を設け、Meetを使ってどのような授業ができるのか、という内容を展開しているところ。大規模校のネットワーク障害については、夏休み明けの利用再開時に、端末の未使用期間が長かったことからアップデートファイルのサイズが大きくなり帯域がひっ迫したことは市教委でも認識している。アップデートが行き渡ったため現在は解消し

ていると捉えているが、まだ不具合が生じるようであれば個々に学校へ行く等して状況を確認の上、対応したい。教員用端末については、予算の制限もあり、現在は普通教室に1台配備までは行っているところ。学校の取組が家庭に伝わっていないということについては、ホームページで発信している学校、していない学校等、様々であるが、実践している内容を広く市民の方へも見ていただけるよう、8月にサポートサイトを立ち上げたところ。夜間フィルタリングについては、現在22時～6時まで停止しているところ。一旦一律で適用しているが、本市で導入しているフィルタリングシステムの仕様上、学校ごとの設定はできないため、今後学年ごとに適切な設定内容を見ていきたい。

堀田会長：フィルタリングの実施は市教委・学校・家庭の間で連携は取れているか？

事務局（大友係長）：校務支援システムで市教委から学校への通知は行ったところである。

堀田会長：新潟市のWebサイトは保護者向け、学校向け、児童生徒向けの情報を整理しており分かりやすい。特設チームが作っていると聞く。仙台市でも、市教委が何を考えているのか出していく方が協力を得られやすいと思う。現状の担当者規模では業務量として難しいので、特設チームを作るのがよいと思う。全部学校の状況に応じて、となると校長が全部判断しないといけなくなりそれはつらい。学校設置者としてのビジョンを示してもらえるとよい。

(2)部会における取組状況について

- ・教育の情報化推進部会の取組について
→事務局より資料1及び資料1-2に基づいて報告した。
- ・家庭の情報モラル推進部会の取組について
→事務局より資料2及びリーフレット案に基づいて報告した。

(質疑等)

佐藤委員：教育の情報化推進部会は先生方の意識向上のためのものと理解するが、自分の子供が通う長町中学校では教員用Chromebookが足りないと同校の先生から伝え聞いている。意識を高めても、端末がどうにも足りないのではないか。特に中学校では普通教室に1台では足りないのでは。

事務局（大友係長）：予算が絡むため明確なお答えは難しいが、教室数に基づく配備のほか、児童生徒数の5%程度の予備機が各校に配備されており、そちらも適宜利用されているものと捉えている。また、校務用端末でも教育用クラウドに入って教材を作成することはできるため、そちらもうまく活用してほしいと考えている。

堀田会長：やはり専用機がないと活用が進まないと思われる。

田中委員：校務用PCはWindows端末であるため、授業時に用いる Chromebookと環境が異なり慣れずにうまく使えない。

大江田委員：自身には小中高それぞれに子供が通っているが、子供達は数年ですぐ卒業してしまうので、スピード感を持った取組としてもらいたい。

○協議事項

(1)仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）の構成及びGIGAスクール端末の活用に関する今後の取組の見通しについて

・事務局より資料3に基づいて説明した。

事務局（大友係長）：今回委員の皆様からいただいた意見を踏まえて年内に中間案を事務局で整理し、これを委員の皆様にもメールでお送りしてご意見をいただき、さらにそれを踏まえて最終案を事務局で整理の上、1～2月目途で第3回協議会にお示しし、そこでの意見も踏まえて、最終的には令和4年3月に市教委の内部会議である情報化推進会議で決定する想定。

（質疑等）

堀田会長：これまでで時間がおしてしまったこともあるが、口頭で意見を述べるよりは、今日の会が終わった後にメールでご意見を事務局へお寄せいただくか、あるいは、次の中間案がメールで委員に示されるときにメールで意見をお出しいただくのがよいかと思われる。

堀田会長：先程もスピード感が重要というご意見があったが、3年計画でよいのか、という点はあるが、例えば今から3年前にはGIGAスクール構想はなかったわけで、状況の変化に応じてすぐリバイズ（改訂）できる、対応できるような作りとしてほしい。

堀田会長：本日ご欠席の稲垣委員、安藤委員からのコメントを改めて紹介してほしい。

事務局（大友係長）：（コメント代読）

事務局（大友係長）：加除や整合性の確認等、コメントいただいたところを反映した上で中間案を作成してまいりたい。

○その他・意見交換

堀田会長：今回はいろいろと厳しい意見もあったが、次回には、いろいろなことが解決してその取組内容について報告が上がることを期待する。

堀田会長：個々の学校の問題・障害や、それへの市教委での具体的な対応事例等紹介されるとよい。